投資者の皆さまへ

マンスリー・レポート

YMアセット・バランスファンド（安定タイプ）／（成長タイプ）

愛称：トリプル維新ファンド（安定タイプ）／（成長タイプ）

追加型投信／内外／資産複合

信託期間　：無期限

決算日　　：毎年6月23日（休業日の場合翌営業日）

基 準 日 ： 2026年10月30日

安定タイプの運用状況

※過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

«基準価額・純資産の推移»

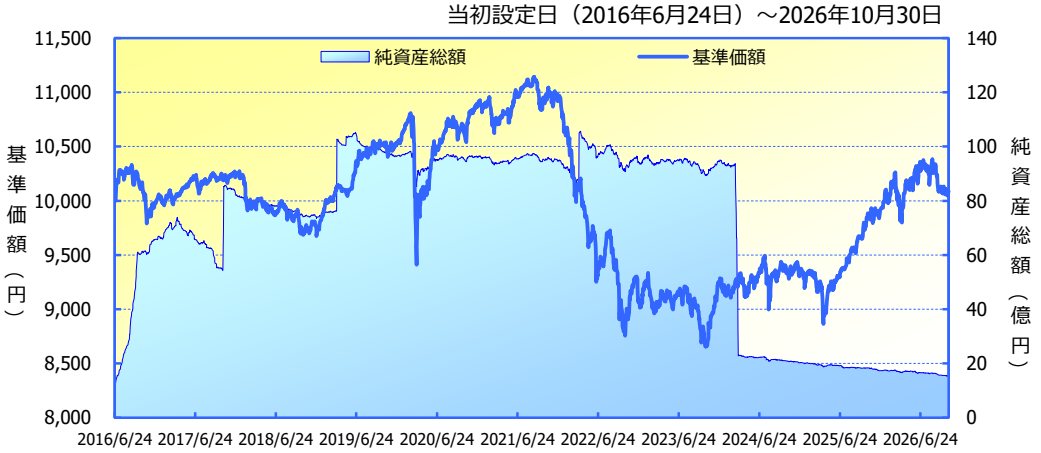
2026年10月30日現在

基準価額	10,087 円
純資産総額	15億円

期間別騰落率

期間	ファンド
1カ月間	+0.2 %
3カ月間	-1.6 %
6カ月間	-0.6 %
1年間	+2.1 %
3年間	+16.5 %
5年間	-8.1 %
年初来	+1.5 %
設定来	+0.9 %

当初設定日（2016年6月24日）～2026年10月30日



※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用（信託報酬）は控除しています（7ページ目の«ファンドの費用»をご覧ください）。

※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間とし、当該ファンドの「基準価額（分配金再投資）」を用いた騰落率を表しています。

※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

«分配の推移»

（1万口当たり、税引前）

決算期（年/月）		分配金
第1期	(17/06)	0円
第2期	(18/06)	0円
第3期	(19/06)	0円
第4期	(20/06)	0円
第5期	(21/06)	0円
第6期	(22/06)	0円
第7期	(23/06)	0円
第8期	(24/06)	0円
第9期	(25/06)	0円
第10期	(26/06)	0円
分配金合計額		設定来： 0円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

«主要な資産の状況»

※比率は、純資産に対するものです。

組入ファンド別構成

ファンド名	比率
国内株式ファンド	13.1%
先進国株式ファンド	13.2%
新興国株式ファンド	3.0%
国内REITファンド	3.9%
先進国REITファンド	3.0%
先進国債券（為替ヘッジあり）ファンド	44.4%
新興国債券（為替ヘッジあり）ファンド	6.0%
コールローン、その他	13.4%
合計	100.0%

通貨別構成

通貨	比率
日本円	80.5%
米ドル	16.8%
ユーロ	2.2%
豪ドル	0.2%
英ポンド	0.1%
シンガポール・ドル	0.1%
カナダ・ドル	0.0%
香港ドル	0.0%
デンマーク・クローネ	0.0%
その他	0.0%
合計	100.0%

※比率の合計が四捨五入の関係で100%にならないことがあります。

※ファンド名は「（適格機関投資家専用）」を省略しています。

※為替ヘッジ付外債は、日本円に分類しています。

«ファンドマネージャーのコメント»

※現時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。

【投資行動】

2026年9月に変更した資産配分を維持しました。今後の運用方針については、2026年11月13日付「Fund Letter」（当社ホームページに掲載）をご覧ください。

【パフォーマンス】

10月は、AI（人工知能）関連企業の資金繰り懸念や欧州の政治不安を背景に米国債が買われ、金利が低下したことから、先進国債券ファンドが上昇しました。一方、原油価格の高止まりやAI投資の採算性への懸念が再燃したことから、新興国株式ファンドが下落しました。先進国債券の配分比率が高かったこともあり、ファンドの基準価額は月間で小幅に上昇しました。

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするためにワイエムアセットマネジメントにより作成されたものです。当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって投資元本が保証されているものではありません。当ファンドの取得をご希望の場合には投資信託説明書（交付目論見書）を販売会社よりお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上ご自身でご判断ください。8ページ目の«当資料のお取り扱いにおけるご注意»をよくお読みください。

設定・運用

YMfg | ワイエムアセットマネジメント

商号等　　ワイエムアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者　中国財務局長（金商）第44号

加入協会　　一般社団法人資産運用業協会

安定タイプの運用状況

組入ファンドの騰落率

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

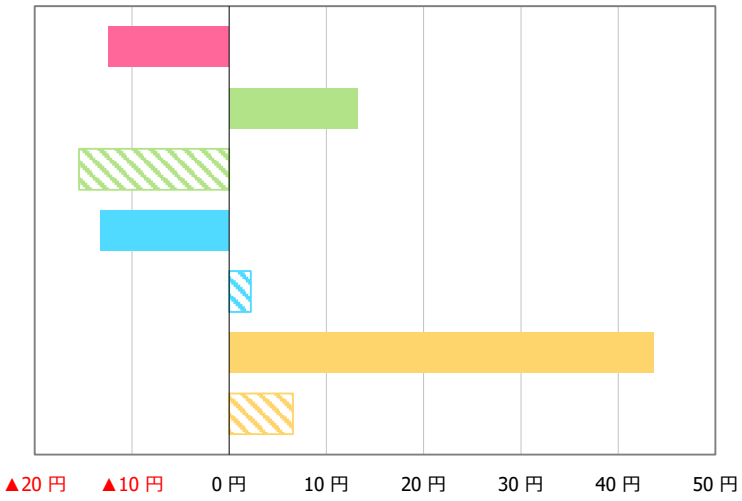
投資信託証券（ファンド名）	運用会社名	主な投資方針	騰落率			
			1カ月間	3カ月間	6カ月間	設定来
国内株式ファンド	大和アセットマネジメント	国内の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	-0.9%	+2.2%	+7.2%	+316.7%
先進国株式ファンド		日本を除く先進国の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	+1.0%	+0.8%	+6.0%	+474.7%
新興国株式ファンド		新興国の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	-5.0%	+0.7%	-1.2%	+261.9%
国内REITファンド		国内のリート市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	-3.3%	-11.9%	-10.3%	+40.3%
先進国REITファンド		日本を除く先進国のリート市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	+0.7%	-12.0%	-2.6%	+130.2%
先進国債券（為替ヘッジあり）ファンド		先進国通貨建ての債券を主な投資対象とし、日本を除く先進国の債券市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。	+1.0%	-1.2%	-2.1%	-21.1%
新興国債券（為替ヘッジあり）ファンド		新興国の国家機関が発行する米ドル建ての債券を主な投資対象とし、新興国の債券市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。	+1.1%	-1.8%	-3.1%	-17.5%

※ファンド名は「（適格機関投資家専用）」を省略しています。

基準価額の月次変動要因分解

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

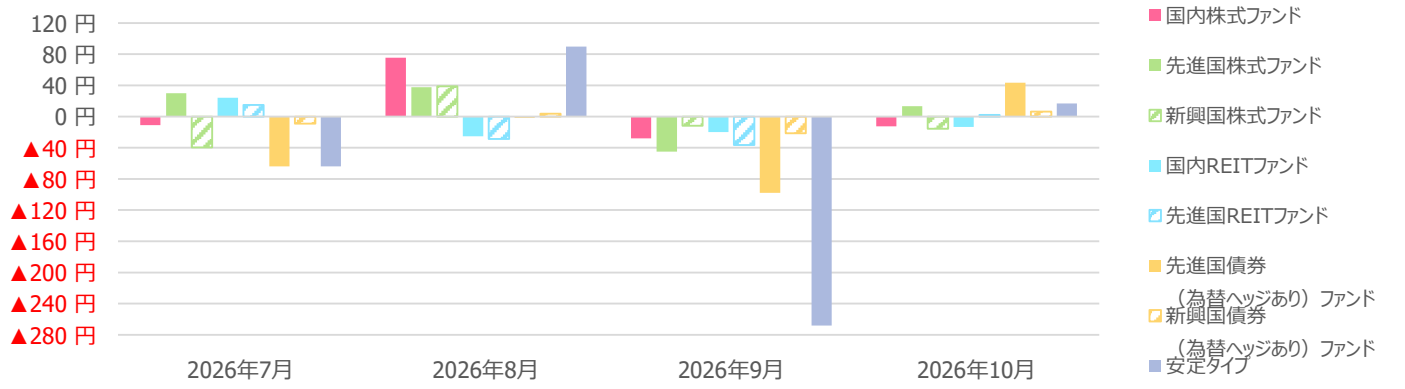
2026年10月末の基準価額	10,087 円
2026年9月末の基準価額	10,070 円
変動額	17 円
内訳	合計
国内株式ファンド	▲12 円
先進国株式ファンド	13 円
新興国株式ファンド	▲15 円
国内REITファンド	▲13 円
先進国REITファンド	2 円
先進国債券（為替ヘッジあり）ファンド	44 円
新興国債券（為替ヘッジあり）ファンド	7 円
小計	25 円
分配金	0 円
信託報酬、その他	▲8 円



※「基準価額の月次変動要因分解」は、簡便法に基づく概算値です。
※ファンド名は「（適格機関投資家専用）」を省略しています。

基準価額の月次変動要因

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。



YMアセット・バランスファンド（安定タイプ）／（成長タイプ）

愛称：トリプル維新ファンド（安定タイプ）／（成長タイプ）

追加型投信／内外／資産複合

信託期間　：無期限
決算日　　：毎年6月23日（休業日の場合翌営業日）　　基 準 日 ： 2026年10月30日

成長タイプの運用状況

※過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

«基準価額・純資産の推移»

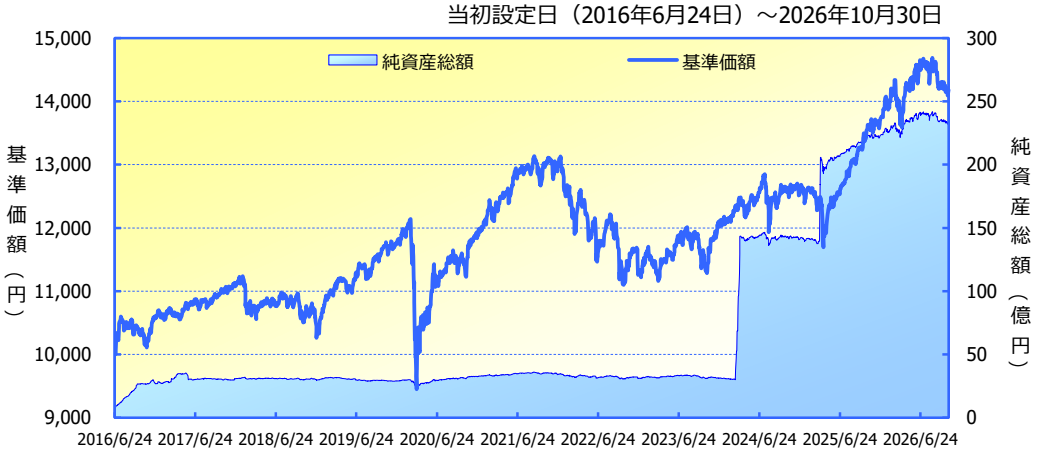
2026年10月30日現在

基準価額	14,175 円
純資産総額	233億円

期間別騰落率

期間	ファンド
1カ月間	-0.3 %
3カ月間	-2.0 %
6カ月間	-0.5 %
1年間	+4.0 %
3年間	+25.6 %
5年間	+8.9 %
年初来	+3.0 %
設定来	+41.8 %

当初設定日（2016年6月24日）～2026年10月30日



※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用（信託報酬）は控除しています（7ページ目の«ファンドの費用»をご覧ください）。
※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間とし、当該ファンドの「基準価額（分配金再投資）」を用いた騰落率を表しています。
※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

«分配の推移»

（1万口当たり、税引前）

決算期（年/月）		分配金
第1期	(17/06)	0円
第2期	(18/06)	0円
第3期	(19/06)	0円
第4期	(20/06)	0円
第5期	(21/06)	0円
第6期	(22/06)	0円
第7期	(23/06)	0円
第8期	(24/06)	0円
第9期	(25/06)	0円
第10期	(26/06)	0円
分配金合計額		設定来： 0円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

«主要な資産の状況»

※比率は、純資産に対するものです。

組入ファンド別構成

ファンド名	比率
国内株式ファンド	15.1%
先進国株式ファンド	15.4%
新興国株式ファンド	6.7%
国内REITファンド	6.8%
先進国REITファンド	7.0%
先進国債券（為替ヘッジあり）ファンド	29.1%
新興国債券（為替ヘッジあり）ファンド	5.9%
コールローン、その他	13.9%
合計	100.0%

通貨別構成

通貨	比率
日本円	70.7%
米ドル	25.5%
ユーロ	2.7%
豪ドル	0.4%
英ポンド	0.3%
シンガポール・ドル	0.2%
香港ドル	0.1%
カナダ・ドル	0.1%
デンマーク・クローネ	0.0%
その他	0.0%
合計	100.0%

※比率の合計が四捨五入の関係で100%にならないことがあります。
※ファンド名は「（適格機関投資家専用）」を省略しています。
※為替ヘッジ付外債は、日本円に分類しています。

«ファンドマネージャーのコメント»

※現時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。

【投資行動】
2026年9月に変更した資産配分を維持しました。今後の運用方針については、2026年11月13日付「Fund Letter」（当社ホームページに掲載）をご覧ください。

【パフォーマンス】
10月は、AI（人工知能）関連企業の資金繰り懸念や欧州の政治不安を背景に米国債が買われ、金利が低下したことから、先進国債券ファンドが上昇しました。一方、原油価格の高止まりやAI投資の採算性への懸念が再燃したことから、新興国株式ファンドが下落しました。新興国株式の下落の影響が相対的に大きく、ファンドの基準価額は月間で小幅に下落しました。

成長タイプの運用状況

組入ファンドの騰落率

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

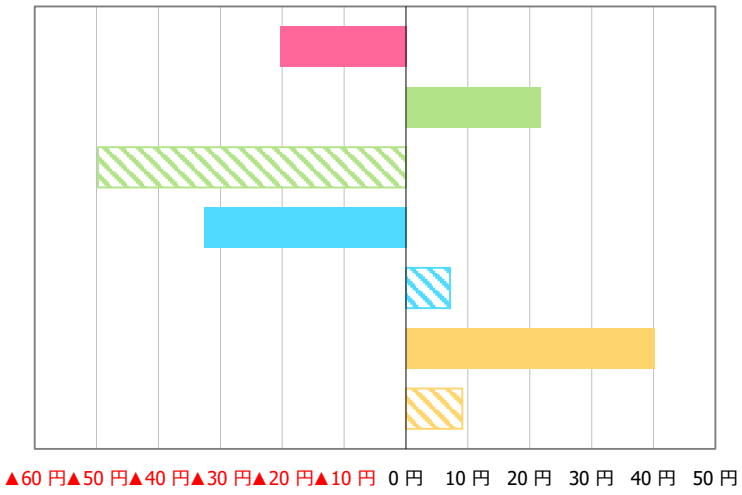
投資信託証券（ファンド名）	運用会社名	主な投資方針	騰落率			
			1カ月間	3カ月間	6カ月間	設定来
国内株式ファンド	大和アセットマネジメント	国内の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	-0.9%	+2.2%	+7.2%	+316.7%
先進国株式ファンド		日本を除く先進国の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	+1.0%	+0.8%	+6.0%	+474.7%
新興国株式ファンド		新興国の株式市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	-5.0%	+0.7%	-1.2%	+261.9%
国内REITファンド		国内のリート市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	-3.3%	-11.9%	-10.3%	+40.3%
先進国REITファンド		日本を除く先進国のリート市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。	+0.7%	-12.0%	-2.6%	+130.2%
先進国債券（為替ヘッジあり）ファンド		先進国通貨建ての債券を主な投資対象とし、日本を除く先進国の債券市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。	+1.0%	-1.2%	-2.1%	-21.1%
新興国債券（為替ヘッジあり）ファンド		新興国の国家機関が発行する米ドル建ての債券を主な投資対象とし、新興国の債券市場の中長期的な値動きを概ね捉える投資成果をめざして運用を行ないます。為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。	+1.1%	-1.8%	-3.1%	-17.5%

※ファンド名は「（適格機関投資家専用）」を省略しています。

基準価額の月次変動要因分解

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

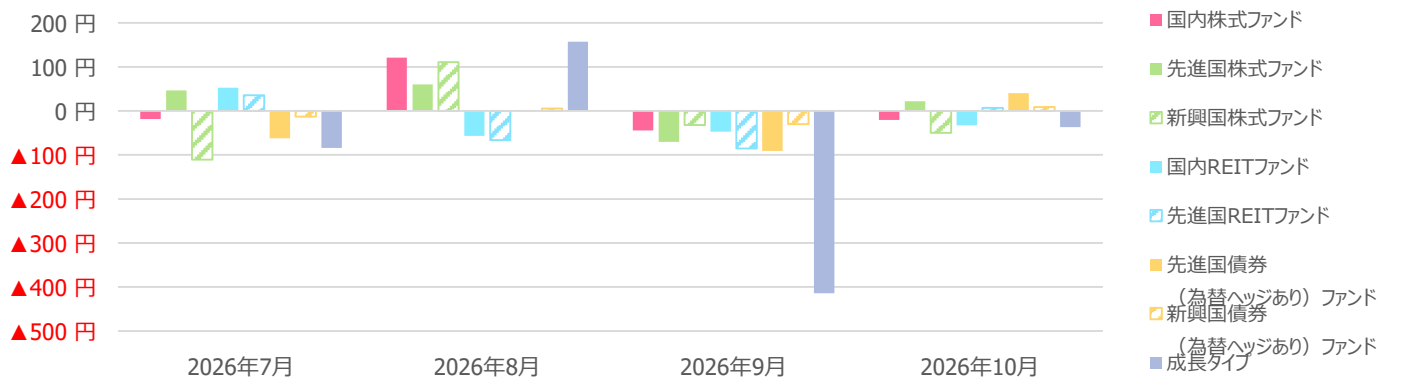
2026年10月末の基準価額	14,175 円
2026年9月末の基準価額	14,212 円
変動額	▲37 円
内訳	合計
国内株式ファンド	▲20 円
先進国株式ファンド	22 円
新興国株式ファンド	▲50 円
国内REITファンド	▲33 円
先進国REITファンド	7 円
先進国債券（為替ヘッジあり）ファンド	40 円
新興国債券（為替ヘッジあり）ファンド	9 円
小計	▲25 円
分配金	0 円
信託報酬、その他	▲12 円



※「基準価額の月次変動要因分解」は、簡便法に基づく概算値です。
※ファンド名は「（適格機関投資家専用）」を省略しています。

基準価額の月次変動要因

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。



«投資環境»

市況概況

※現時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。

（国内株式）
国内株式市場は下落しました。AI（人工知能）・半導体銘柄を中心に上昇して始まりましたが、月半ばに米コアウィーブの信用不安が表面化し、AI・半導体関連銘柄を中心に下落しました。その後もAI投資の持続性に対する懸念が燻る中、同関連銘柄の株価は一進一退の展開となったほか、景気減速への警戒感から景気敏感株にも売りが広がり、月末にかけて軟調に推移しました。

（先進国株式）
先進国株式市場は上昇しました。月前半は、米国株が堅調に推移した一方、欧州株は、エネルギー価格と金利の高止まりへの懸念から、上値の重い展開となりました。月半ばには、米コアウィーブの信用不安が表面化し、米国株はAI・半導体関連株を中心に一進一退の展開となりました。もっとも、ディフェンシブ株が底堅く推移したことで、相場全体は下支えされました。また、欧州株は好調な企業業績を背景に、月末にかけて堅調に推移しました。

（新興国株式）
新興国株式市場は下落しました。月前半は、原油価格の高止まりや米国のインフレ指標の上振れに伴う追加利上げ懸念などから、テクノロジー株を中心に軟調に推移しました。月後半は、中東情勢の緊迫化などから軟調となる中、半導体関連企業の好決算で一時反発したものの、米大手テック企業の決算を受けてAI投資の採算性への懸念が再燃し、下落基調で推移しました。

（国内リート）
国内リート市場は下落しました。決算発表では、オフィスや賃貸住宅、都市型商業施設などの幅広い用途で好調な事業環境を背景とした賃料増額が確認されたものの、国内株式が下落する中、国内リート市場も軟調な推移となりました。

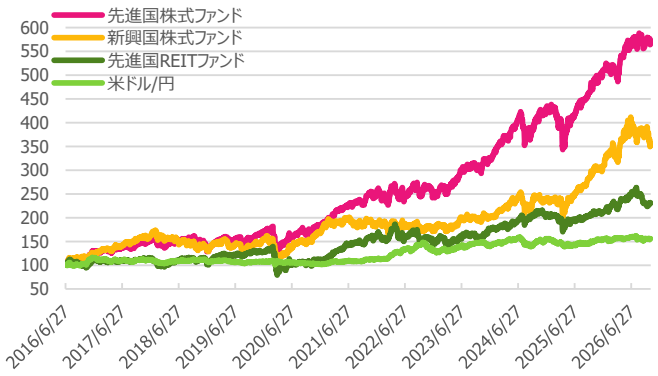
（先進国リート）
先進国リート市場は上昇しました。インフレ圧力への警戒感が燻る一方、AI関連企業の資金調達を巡る懸念などから景気の先行きに対する警戒感やリスク回避姿勢が強まり、金利が低下したことがリート市場を下支えしました。米国では、10月末時点でリートの半数程度が7-9月期決算を発表しており、このうち市場予想を下回った銘柄は2割程度にとどまるなど、総じて堅調な決算内容となっています。

（先進国債券）
先進国債券市場は上昇（金利は低下）しました。米国では、AI関連ビジネスの資金繰り懸念や欧州の政治不安などを背景に市場のリスク回避姿勢が強まり、安全資産とされる米国債が買われて金利は低下しました。その他の国の金利は、政治リスクが意識された一部の国を除いて、おおむね米国につられて低下しました。

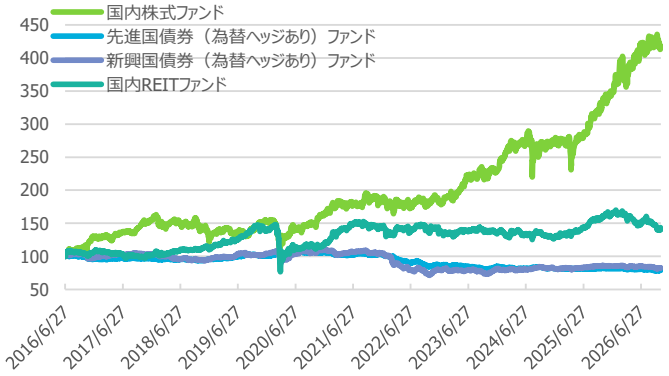
（新興国債券）
米ドル建て新興国債券のスプレッド（米国債との利回り格差）は拡大しました。AI・半導体関連株の下落により投資家心理が悪化しました。

（為替）
為替市場では、投資対象通貨は対円でまちまちでした。AI関連ビジネスの資金繰り懸念などを背景に、円高が進行する場面もありましたが、原油価格が上昇する中で日本の貿易収支悪化への懸念も根強く、米ドル円は小幅な動きにとどまりました。また、欧州の政治不安を受けてユーロを中心に複数の欧州通貨が対円で下落した一方、利上げ観測の高まりなどを背景に対円で上昇する通貨もありました。
新興国の為替市場でも、AI関連ビジネスの資金繰り懸念や欧州の政治不安が円高要因となった一方、原油価格の上昇は円安要因となりました。そうした中で新興国通貨は、各国の政治・経済情勢や商品価格に対する感応度の違いなどから、対円でまちまちな動きとなりました。

組入ファンド（為替ヘッジなし）と為替の価格の推移



組入ファンド（為替ヘッジありおよび国内資産）の価格の推移

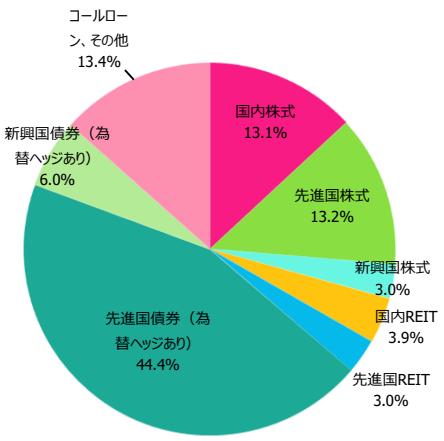


※ファンド設定日を基準として指数化しています。

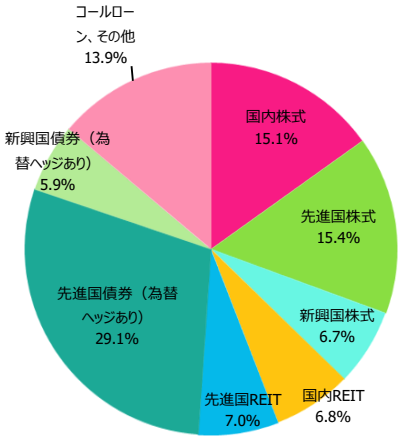
«各コースの資産・通貨別構成と基準価額の比較»

資産別組入ファンド比率（純資産比）

安定タイプ



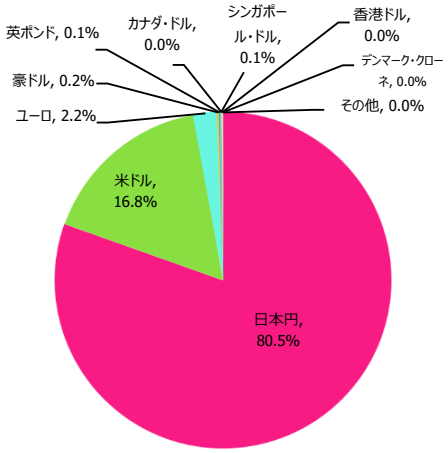
成長タイプ



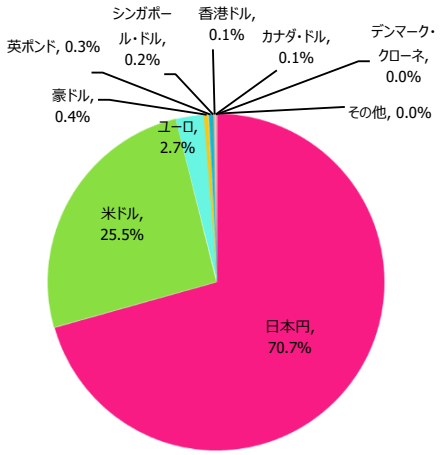
※比率の合計が四捨五入の関係で100%にならないことがあります。

通貨別構成（純資産比）

安定タイプ



成長タイプ



※大和アセットマネジメントのデータを基にワイエムアセットマネジメントが計算しています。
※比率の合計が四捨五入の関係で100%にならないことがあります。
※為替ヘッジ付外債は、日本円に分類しています。

基準価額（分配金再投資）の比較

※データは過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

当初設定日（2016年6月24日）～2026年10月30日



※「基準価額（分配金再投資）」は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。
※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用（信託報酬）は控除しています（7ページ目の«ファンドの費用»をご覧ください）。
※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

«ファンドの目的・特色»

ファンドの目的

●内外の債券、株式および不動産投資信託証券（リート）に投資し、信託財産の成長をめざして運用を行ないます。

ファンドの特色

1. 複数の投資信託証券への投資を通じて、主として内外の債券、株式および不動産投資信託証券（リート）に投資します。
2. 各資産への投資比率が異なる「安定タイプ」と「成長タイプ」の２つのタイプから選択できます。
3. 山口フィナンシャルグループの運用会社であるワイエムアセットマネジメント株式会社がファンド運用を行ないます。
4. 内外の債券、株式およびリートを実質的な投資対象とする複数の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。

・各ファンドの略称としてそれぞれ次を用いることがあります。
YM アセット・バランスファンド（安定タイプ）：「安定タイプ」
YM アセット・バランスファンド（成長タイプ）：「成長タイプ」
・各ファンドの総称を「YM アセット・バランスファンド」とします。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

«投資リスク»

●当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。
基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

「価格変動リスク・信用リスク（株価の変動、公社債の価格変動、リートの価格変動）」、「為替変動リスク」、「カントリー・リスク」、「その他（解約申込みに伴うリスク等）」
※新興国には先進国とは異なる新興国市場のリスクなどがあります。
※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。
※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。

«ファンドの費用»

<table>
<tr><td colspan="4">お客さまが直接的に負担する費用</td></tr>
<tr><td colspan="2">購入時手数料</td><td colspan="2">ありません。</td></tr>
<tr><td colspan="2">信託財産留保額</td><td colspan="2">ありません。</td></tr>
<tr><td colspan="4">お客さまが信託財産で間接的に負担する費用</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="4">運用管理費用
（信託報酬）</td><td colspan="2">運用管理費用の総額は、毎日、信託財産の純資産総額に対して次に掲げる率</td></tr>
<tr><td>安定タイプ</td><td>成長タイプ</td></tr>
<tr><td>年率 1.1275%（税込）</td><td>年率 1.2375%（税込）</td></tr>
<tr><td>投資対象とする投資信託証券</td><td>年率 0.209%（税込）～年率 0.330%（税込）</td><td>年率 0.209%（税込）～年率 0.330%（税込）</td></tr>
<tr><td>実質的に負担する運用管理費用</td><td>年率 1.406%程度（税込）＊</td><td>年率 1.510%程度（税込）＊</td></tr>
<tr><td colspan="2">その他の費用・手数料</td><td colspan="2">監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。
※「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。</td></tr>
</table>

＊実際の組入状況等により変動します。
※手数料等の合計金額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。また、上場不動産投資信託は市場価格により取引されており、費用を表示することができません。
※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。

«当資料のお取り扱いにおけるご注意»

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするためにワイエムアセットマネジメント株式会社により作成されたものです。
- 当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみなさまの実質的な投資成果を示すものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。
- 分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

販売会社等についてのお問い合わせ
► ワイエムアセットマネジメント株式会社
083-223-7124（営業日の9:00～17:00）
当社ホームページ
► https://www.ymam.co.jp/

«販売会社»

販売会社（業態別、50音順）（金融商品取引業者名）		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人資産運用業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株式会社北九州銀行	登録金融機関	福岡財務支局長（登金）第117号	○	○		
株式会社もみじ銀行	登録金融機関	中国財務局長（登金）第12号	○	○		
株式会社山口銀行	登録金融機関	中国財務局長（登金）第6号	○	○		
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長（金商）第8号	○			

上記の販売会社については今後変更となる場合があります。また、新規のご購入の取り扱いを行っていない場合がありますので、各販売会社にご確認ください。